



今後の研究プロジェクトの推進計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期の予定では、H28年度は調査問題の作成、H29年度は調査の実施であった。いろいろな方々の協力を得て、既にH28年度内で調査の実施を始めている。</li> <li>・H29年度は、中国と米国の調査（すでにH28年3月段階で一部スタートしている）を実施する。必要に応じて日本の調査の参加者を増やす。</li> <li>・国際学会（全米科学教育学会・NARST）への発表申し込みを行う。査読審査を通過すれば、H30(2018)年度の発表となる。ヨーロッパの科学教育学会、日本の理科教育学会、中国の科学教育学会などへも、状況に応じて発表申し込みを行う。</li> </ul>	
教育現場や地域で活用可能な成果等	
<p>まだ、研究は継続中である、現段階では成果等は、まとめられてはいない。今後の方向性を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この研究の成果を学術的に発信するだけでなく、本学の教員養成教育のために活用する。具体的には探究学習の指導方法、カリキュラム開発などの資料を作成する予定である。</li> <li>・新しい学習指導要領の準備が進んでいる。これから求められる『主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点）（中教審答申）と探究的な学習（IBL）は深い関わりを持っている。したがって、地域の先生方の理科授業のデザインにかかわる課題解決に、本研究の成果を用いていく予定である。</li> <li>・繰り返しになるが、成果については、この調査に協力してくれた地域（旭川、東京北区、山梨県）のみならず、広く伝えてゆきたい。学会、研究会での発表を行う予定である。</li> </ul>	
研究成果の公表実績	
【著書】 研究中のため、まだない。	
【学術論文】（投稿中も含む） 研究中のため、まだない。	
【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】 研究中のため、まだない。	
【テキスト、報告書、研修資料等】 研究中のため、まだない。	
添付資料	調査問題などは、まだ公開できません。
ダウンロード可能なドキュメント	杭州師範大学を訪問したときの様子が、大学の新聞に掲載されました。 <a href="http://ch.hznu.edu.cn/c/2016-12-29/914302.shtml">http://ch.hznu.edu.cn/c/2016-12-29/914302.shtml</a>
関連URL	なし
問い合わせ先	氏 名：古屋 光一 電 話：0166-59-1310 E-mail：furuya.koichi@a.hokkyodai.ac.jp